

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホームすまいる2号館

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200103		
法人名	医療法人仁泉会		
事業所名	グループホームすまいる2号館		
所在地	〒027-0096 岩手県宮古市崎嶺ヶ崎第9地割39番地70		
自己評価作成日	令和2年8月5日	評価結果市町村受理日	令和2年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当グループホームの近くには同法人経営の介護老人保健施設ほほえみの里やグループホームすまいる、グループホームたろうがあり、支援や協力を得やすい環境で安心して過ごすことができます。入居者様・家族様・地域の皆様との繋がり、馴染みの関係を大切に、いつも笑顔で生活できるよう努めています。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、施設の近くに向法人の介護老人保健施設やグループホーム2施設があり、ホフアニアの受け入れ、共同事業の開催、看護師の助言、支援など、相互に協力、支援しながら、充実した介護サービスを利用者に提供している。運営にあたっては、施設で定めた理念を職員間で共有し、年度ごとの目標を定め、家族や利用者の要望、運営推進会議の意見や助言、職員の提案を受け、感染症対策や利用者の外出時の所在確認、施設内での夏祭りの開催や居室のエアコンの整備など、施設の運営、業務の改善や施設の拡充を推進している。コロナ禍にあって地域住民との交流が難しいなか、地域の環境美化や看護学生の研修の受け入れ、認知症カフェの開催を計画するなど、地域との連携、交流に力を入れている。また、働きかた改革に取り組み、職員の要望や提案を受け入れ、勤務時間の変更、休憩時間の設定、定時退所、有給休暇の取得の励行など、勤務条件の改善に取り組むとともに、資格取得の支援も進め、職員の勤労意欲とスキルアップにより、より良い介護サービスを利用者に提供している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年8月31日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 2 年度

事業所名 : グループホームすまいる2号館

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホールの見やすいところに掲示し、職員間で共有を図っている。また、入居者様と関わる時間を増やし、関わりの際に実践に繋がるよう努めている。	事業所理念「いつも笑顔で話輪和」のもとに年度ごとの目標を定め、聴く姿勢、話し易い態度を大切に、利用者との関わりを多く持つことを全員で心掛け、利用者目線で、利用者に寄り添い、より充実した介護サービスを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	月1回の読み聞かせボランティア(今年度はコロナの影響で受け入れできず)や飛び込みでのボランティアを受け入れたり、他事業所でのイベントの参加、同法人のグループホームとの合同行事での交流、年4回広報発行し、ホームの情報を地域の方々に伝えている。	自治会に加入し、公民館の行事や地域の草取りなどに参加するほか、施設の広報を地域の年4回配布するなど、地域との交流に取り組んできたが、今年はコロナ禍に伴う自粛ムードを続けながらも、年4回の広報発行等で地域との維持しているとしている。今後、可能であれば、認知症カフェの開催や看護学生の研修の受け入れを進めたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年4回広報を発行し、ホームの状況を伝えている。近隣を散歩する際には挨拶、会話をし積極的に関わり、認知症の理解に努めている。今年度から認知症カフェに参加の予定であったが、コロナの影響で開催されていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナの影響で開催出来ない。前年度まではホームの取り組み状況を報告したり、参加者からの情報を頂き、ホームの運営に役立てている。	運営委員による感染症対策や利用者の外出時の所在確認などの助言や提言を受け入れ、業務の改善や運営に活かしている。	コロナ禍のため、本年度は運営推進会議の開催が困難となっているが、施設の運営状況報告に加え、委員からの助言や提言、情報提供を頂くための方策を講じられることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加頂きホームの情報を提供したり、緊急ショートステイの受け入れ体制が整ったことを連絡し、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の研修会や集団指導会に出席しているほか、感染症対策や各種行政情報を文書やメール、電話で入手している。要介護認定申請や生活保護関連の届出等への助言・指導を得ているほか、防災ラジオによる緊急情報も入手している。緊急ショート受け入れ体制を整備し、地域包括支援センターとの連携を図っている。	

令和 2 年度

事業所名 : グループホームすまいる2号館

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。玄関の施錠も夜間のみである。法人内やホームでの勉強会に加え、外部研修の伝講を行い、身体拘束について正しく理解できるように取り組んでいる。カンファレンスの際に話し合ったり、身体拘束適正化委員会に参加し、施設全体で身体拘束ゼロを目指し取り組んでいる。	法人本部の身体拘束適正委員会に出席するほか、県の研修会への参加資料(事例発表)を活用し、職員研修や勉強会を開催し、職員に趣旨の徹底を図っている。特に、職員アンケートによる具体的な事例研究を介護に活かしている。身体拘束の事例はなく、夜間の離床確認用のセンサーを数名に活用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会やホーム内の勉強会にて正しく理解した上で虐待のないケアをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内での勉強会や外部での研修に参加している。制度を利用している入居者様もあり、関係機関との連携を図り支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前または改定時に管理者から説明を行っている。面談の際不安や要望を聞いたり、十分な説明を行い、面会時や電話等でもその都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は、意見箱を設置したり、施設内での苦情・相談先を掲示している。毎月ご家族に出すお便りの中に要望の記入欄を設けている。また、面会の際には対応した職員が入居者様の情報を伝え、ご家族が意見や要望を伝えやすくなるような雰囲気作りに努めている。	毎月、居室担当者から、利用者の写真つきの生活状況を「お知らせ」として作成、配布し、意見や要望を伺っている。遠方の家族から利用者の普段の様子を見たいという声があり、スマホで動画を送り喜ばれたことがあるが、特に運営に関する意見・要望はない。利用者の買い物やお手洗いなどの要望を聴き取り、意向に沿った対応をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の業務会議や申し送りノートを活用し業務の見直しや提言を行っている。	職員と施設長との年4回の面談により、意見や要望を聴き取り、勤務時間や休息、有給休暇の取得、資格取得、施設内での夏祭りなどの行事の開催に繋げているほか、随時のミニカンファレンスによる提案を受け入れ、業務改善などに取り組んでいる。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームすまいる2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めに職員それぞれに個人目標を立ててもらい、目標が達成できるように進捗状況の確認をしたり、アドバイスをを行っている。また、年に数回面談を実施して職員の要望などを聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の業務会議時に勉強会を行ったり、法人内での勉強会(eラーニング含む)や外部研修も積極的に参加できるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの合同行事や交換研修、地域密着型サービス協会のブロック研修などの機会を通じて交流している。今年度は感染症予防対策のため研修等には参加できていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、不安なことや要望等を聴き取りながら入居に向けての準備を行っている。入居後、入居者様との会話や日常生活の中でコミュニケーションを図り、職員間で情報を共有し、統一したケアで支援し安心した生活が送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人と同様に入居前や入居後に不安や要望等を聞き、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の際に入居者様家族様の意見や要望を聴き取り、適切な支援ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様1人1人のできることを把握し、家事や作業と一緒にいき、感謝の声掛けをしている。職員と共に入居者様それぞれのレベルに合わせ、役割を持って能力を発揮できるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りや面会時に入居者様の状況を報告し、急な出来事や体調変化の際は電話やメールで連絡を行っている。感染防止対策で現在は中止しているが、必要に応じて通院の同行や自宅に帰ったり共に支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染防止対策で現在は中止しているが、ご家族と外出して親戚宅へ行ったり、美容室に出かけたり、昔からのかかりつけ医へ定期受診するなど馴染みの関係が途切れないよう支援している。	コロナ禍により知人、友人の来所は難しい状況にあるが、親戚などが来所した場合は、風除室のガラス戸越しに面会している。施設内での夏祭りを企画し、浴衣、スイカ割り、屋台、花火など地域文化との触れ合いを大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士、お互いの居室を訪ね談話したり、軽作業の際には声を掛け合い、必要に応じて職員が間に入り橋渡しをすることでトラブルがないよう見守り、支えあえる支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用した後も関係機関への情報提供等の支援を必要に応じて行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の面談や日常の会話の中からお本人の希望や意向を把握できるよう努めている。困難な場合は普段の言動や体調等を考慮しながら本人本位に検討している。	利用者の経験や知識、生活歴と心情を大切にしながら、生活の中で利用者の意向を把握し、利用者の笑いを引き出せるように努めている。また民間の学習療法を取入れ頭の体操や簡単な計算などにも取り組んでいる。七夕の短冊には、食事や長生きなどの願い事が書かれ、参考としている。	

令和 2 年度

事業所名 : グループホームすまいる2号館

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の調査資料での把握、ご本人やご家族から聴き取りを行っている。また、課題分析表を活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや状態観察を行い、普段と違った言動があればその都度記録し、申し送りノートやカンファレンスで共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで課題とケアについて話し合い、評価と見直しを行い、ご家族にも説明して現状に即した介護計画を作成している。	3か月ごとに介護計画を見直している。ケアマネが計画の原案を作成し、居室担当が評価を行い、職員会議でのカンファレンスを経て、ケアマネが改めて計画の成案を作成している。家族の意向確認のほか、医師への相談、看護師の指導・助言、及び法人の管理栄養士によるカロリー指導も計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	午前と午後に個別の記録を記入し、また普段と違った言動があった時にもその都度記入している。申し送りノートを活用し、些細なことも共有できるようにしている。カンファレンスは月1回開催し、柔軟な対応ができるよう取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状況の変化により、月1回のカンファレンスの他に必要に応じてミニカンファレンスを開いて、柔軟に対応するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染防止対策で現在は中止しているが、地域のボランティアサークルの読み聞かせや歌、軽体操等の交流の場を設けている。中高生の職場体験学習、看護学生実習の受け入れも行っている。また、職員と一緒に散歩や買物に出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族の希望を伺い、かかりつけ医を変更することなく受診している。受診の際はホームでの様子を情報提供し、適切な医療が受けられるよう支援している。	職員が同行し入居前のかかりつけ医を受診している。家族には、受診状況を毎月お知らせしている。緊急の場合は、家族と連絡を取り対応している。皮膚科、眼科の専門科も同様である。入れ歯の矯正などは、協力医による歯科の訪問診療を受診している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームすまいる2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師の来設、体調不良時は24時間体制で緊急時も相談・指示含め、対応できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医・担当看護師・医療連携室と情報交換を行い、ご家族を含め安心して治療できるように、また早期退院出来る様に連携室と連絡を取り、居室を確保して待っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今のところ終末期までの支援は行っていない。ご本人とご家族の意向や現状を検討しながら次のサービスへの支援につなげられるような支援をしている。	看取りの実績はないが、かかりつけ医の指示を得て終末期ケアを行っており、他施設から電動の可動式ベッドを導入している。週1回に来所する看護師の支援を得ている。重度化した場合は、改めて家族の意向を聴き、医療機関等に移送している。他施設で看取りの経験者もおおり、職員間で知識を共有し終末期ケアに万全を期している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護師による勉強会や救命救急講習会など定期的に受講している。また、急変時には職員が駆けつけ、サポートできる体制づくりをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災の避難訓練や防災訓練等を実施している。感染防止対策のため現在は中止しているが、地域の方や近隣施設も参加し、協力体制を築いている。非常時の備品・食料品等も備えている。	前年度は、地域の協力を得て訓練を実施したが、今年度予定している総合訓練は、コロナ禍ということもあり、法人の他施設との協力を検討している。ハザードマップで避難所等を確認している。防災ラジオでの情報入手、食材の備蓄、発電機等を確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であることを念頭に置きながら、その方の認知症状も理解した上で言葉のかけ方、声のトーンなどを工夫しながら対応している。	難聴者とはホワイトボードへ書き込んだりジェスチャーで、コミュニケーションを取っている。地域の馴染みの話し方など利用者の誇りを大切に、家族の来所時には写真を撮るなど、家族との触れ合いや絆に配慮している。個人情報、個別にファイル保存しているほか、パソコン情報はパスワードで管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が意思決定できるような声掛けや選択肢を提示して自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はあるものの、1人1人の体調やペース、想いを大切にその時にどこでどのように過ごしたいかを汲み取り、最優先に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望を尊重した上で、毎日の服装や外出に季節やその日の天候にあった服装の選択ができるよう支援している。散髪はご本人・ご家族の希望に沿って対応している。(感染防止対策のため現在床屋が入れない)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会や行事食にはご本人の希望を聞き、好きなものを提供できるよう、またメニューが選べるように声掛けし自己決定を促している。一緒に準備を行い、出来ることへの支援も合わせて行っている。	献立、料理は職員が行い、週ごとに法人の管理栄養士のチェックを受けている。季節の旬の物や地元の食材を活用し、栗ご飯、まつたけ、焼きうに、新巻鮭などを提供している。家族から野菜やお菓子などの差し入れもある。様々な行事食は利用者の希望を伺ったりして自己決定を促し、食事の楽しみを増やすように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	なるべく旬の物や多くの食材を使用して食事を作るよう心掛けている。個々に合わせた食事形態それぞれの食事にかかる時間を考慮し、対応している。また、十分に水分摂取できるように工夫している。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームすまいる2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや介助などそれぞれの能力に合わせた支援を行い清潔を保持している。口腔ケア用品も個々の口腔状態に合わせて使い分けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、介助の必要な方には排泄パターンに応じたトイレ誘導を行い、失禁やパットの使用を減らすよう支援している。	完全自立は1名で、見守りなどの部分介助は5名、全介助は3名である。布パンツは3名で、その他は、リハビリパンツや尿取りパット、オムツを使用している。失禁やパットの使用を減らすように、パターンに応じた誘導を心掛けている。全員がトイレ排泄をし、夜間にセンサー、ポータブルトイレを使用する方はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表の活用と食事・水分量の把握をし、食事の内容の工夫、散歩や軽体操を行うなど便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきに入浴しているが、希望があれば毎日でも入浴できる。希望の時間を聞くなどし、気分良く入浴できるようにしている。声掛け時拒否があっても体調に問題がなければ後からもう一度声掛けしたり、職員を替えて声掛けし、入浴できるよう支援している。	1日おきに午後の入浴としているが、利用者の希望があれば回数を増やしている。入浴を嫌がる方には時間差や声掛けの変化により誘導している。菖蒲湯、ゆず湯でリラックスし、本音の話が聴けるコミュニケーションの機会ともなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望や体調前夜の申し送りの内容を考慮し、休息が取れるようにしている。また、個々の状態に合わせて食事の後居室で休んだり、午睡の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明・用法・用量については入居者ごとにファイルし、通院録と合わせて確認できるようになっている。摂ってはいけない食材等把握し支援している。また、症状の変化など申し送りで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持って家事を行ったり、軽体操、歌、散歩や塗り絵などそれぞれに合わせた気分転換が図れるよう支援している。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームすまいる2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染防止対策のため現在は行っていないが、家族支援での外出や近隣ホームとの合同行事、買い物等に行く際外出の機会を作る等している。	例年だと、施設の周辺を散歩したり、近くの公園に出かけたり、栗拾いや浄土ヶ浜にドライブするほか、食材の買い物に同行する利用者もいる。今年にはコロナ禍のため殆ど出かけていおらず、一日中ホームの中にいるストレスの解消に職員は思案している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在現金を所持している人がいない。ホームでは個人の所持金に関しては管理していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	入居者様より希望があればいつでも支援できるようにしている。ご家族から電話が来た際には電話口に出てもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月入居者様と職員で季節を感じる壁掛けを作り、掲示している。温度や湿度を確認し、換気やエアコンなどを使用し、快適に過ごせるよう努めている。	高い天窓から光が差し込むホールに配置された、食事用テーブル、ソファで利用者は寛いでいる。2か月ごとに行われる行事の写真パネルや手作りの作品が飾られ、入り口には職員の似顔絵を貼りだしている。ホールは、落ち着いた雰囲気の中に清潔感もある。エアコンやパネルヒーター、加湿器で、温度や空調は適正に管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファ、廊下にはベンチがあり、1人になれたり仲良く談話できる場所がいくつかあり、それぞれ自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時馴染みの物を持ち込んだり、家族との写真を居室に飾るなど、居心地が良く安心して過ごせるようにしている。	本年度、エアコンが整備され、快適な環境となっている。利用者ごとに、衣装ケース、家族写真、ぬいぐるみなど、思い出のものを持ち込み、居心地の良い居室となっている。居室の名前は、地域の名勝となっているが、利用者の希望で変更している名札もある。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームすまいる2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示を分かりやすくしたり、居室にはネームプレートを本人が見やすい位置に掲げており、居室が分からなくなっても自分で確認できるようにしている。また、常夜灯を点け夜間でも安心して移動できるようにしている。		